4th 前橋文化推進会議

第４回アーツなカフェ「クリエーターとはなすカフェ」
内覧イベントから考える、みんなのいろんな参加のしかたについて

2013 年 5 月 18 日（土）/ 元気 21 中央公民館 55 学習室

◇ HP　http://maebun.web.fc2.com/　◇ facebook　http://www.facebook.com/maebunsui　◇ twitter　http://twitter.com/MaeBunsui

■ はじめに

◆ 前橋文化推進会議は、『アーツ前橋』を中心に、「市民の手によって／新たな文化を生み出し・支え、維持し／発展させ、発信していくこと」を準備するための市民会議です。

◆ アーツなカフェは、前橋文化推進会議がご用意する、市民と市民の対話の場、市民と行政の対話の場、市民と文化・芸術の対話の場です。

◆ 第４回アーツなカフェ / 主催：前橋文化推進会議
日　　時：2013 年 5 月 18 日（土）午後 1 時 30 分～午後 3 時 50 分
場　　所：元気 21 中央公民館 55 学習室
参加人数：約 60 名

◆ 配布資料：
・クリエーターと話すカフェメニュー（カフェ進行次第）
・アーツなカフェ及び前橋文化推進会議に関するアンケート
・色紙（青／赤）参加者が意思表示しやすくするために配布しました。

◆ 補足：
・今回のアーツなカフェに、内覧イベント「walk　あるくことからはじまること」を見た方がどのくらい参加しているのか把握するため、カードを使って質問した。その場では「見た」を掲示した方が大半であった。一方、カフェで行ったアンケート(*)の結果では、内覧イベントを見ていない人が 50％以上であった。アンケート回収率が 38％（23/60）であることを考慮しなければならないが、カードとアンケートの齟齬は、カードで「見た」を示した方のなかで、アーツ前橋の他のイベントや、以前のアーツなカフェなどの参加と混同があったと考えられる。質問が不明確であったのかも知れない。

また、今回のカフェは、内覧イベントの検証ということを話題の中心に据えて構想されていたが、主旨が十分に広報できていなかったと考えられる。
・本文中でアーツ前橋に対して「美術館」という呼称が使われているが、発言内容を尊重してそのままとしました。

＊第 4 回アーツなカフェで、2013 年 3 月 23 日（土）24 日（日）の両日、アーツ前橋で開催された施設内覧イベント「walk あるくことからはじまること」およびアーツ前橋の事業に関するアンケートを行った。アンケート結果は前橋文化推進会議のＨＰで公開。

◆ 過去のアーツなカフェ
第１回：「アーツなカフェって、なんなん？」
日　　時：2012 年 10 月 21 日（日）午後 1 時～
場　　所：元気 21 中央公民館 55 学習室
参加人数：約 50 名

第２回：「今から考えなくっちゃいけないこと」
日　　時：2012 年 12 月 15 日（土）午後 3 時 30 分～
場　　所：元気 21 中央公民館 42 アトリエ
参加人数：約 40 名

第３回：「アーツなトーク　市長とアーツをアツく語る。」
日　　時：2013 年 2 月 25 日（月）午後 7 時～
場　　所：元気 21 中央公民館 51/52 学習室
参加人数：約 120 名

前橋文化推進会議

第４回アーツなカフェ「クリエーターと話すカフェ」
2013 年 5 月 18 日（土）/ 元気 21 中央公民館 55 学習室

◇ HP　http://maebun.web.fc2.com/　◇ facebook　http://www.facebook.com/maebunsui　◇ twitter　http://twitter.com/MaeBunsui

文推

第４回 アーツなカフェ『クリエーターと話すカフェ』

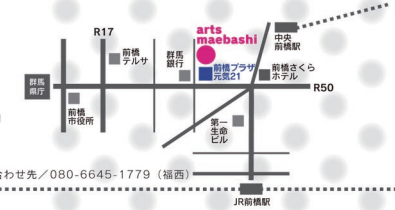
「内覧イベントから考える、みんなのいろんな参加のしかたについて」

のべ 2500 人が来場したアーツ前橋内覧イベント「walk あるくことからはじまること」をふりかえり、イベントに参加した市民と、市内のクリエーターが出遭い対話する「アーツなカフェ」に参加しませんか。

■2013 年 5 月 18 日（土）午後 1 時 30 分～
■前橋プラザ元気２１・中央公民館 55 学習室
■対象：どなたでも
■定員：先着７０名（当日会場へお越し下さい）
■参加費無料 ＊カフェ参加者は次の駐車場は無料です（元気２１駐車場、城東町立体駐車場、前橋中央駐車場、五番街立体駐車場、千代田町二丁目立体駐車場）
■簡単な飲み物とお菓子を用意します。ちなみに、カンパ大歓迎！！

●カフェを運営するサポーターも随時募集しています！！（このサイトの「お問い合わせ」からご応募ください）
●カフェではチラシやフライヤー配布 OK なので、ライブやコンサート、公演、イベントなどの告知されたい方、ぜひチラシ類をお持ちください！

前橋文化推進会議
citizen's council for cultural promotion of maebashi city



《前橋文化推進会議サイト》http://maebun.web.fc2.com/index.html
《facebook》http://www.facebook.com/maebunsui
《twitter》http://twitter.com/MaeBunsui

問い合わせ先／文化国際課芸術文化推進室 027-230-1144 当日問い合わせ先／080-6645-1779（福西）

＊第４回アーツなカフェのチラシ

第４回アーツなカフェ / 主催：前橋文化推進会議 / 2013 年５月 18 日（土）午後１時半～ / 元気プラザ２１中央公民館 55 学習室
◇twitter　http://twitter.com/MaeBunsui　◇facebook　http://www.facebook.com/maebunsui　◇HP　http://maebun.web.fc2.com/

クリエーターと話すカフェ

内覧イベントから考える、みんなのいろんな参加のしかたについて

本日のメニュー

1. アンティパスト（前菜）：前橋文化推進会議について　喜多村議長
   前橋文化推進会議をあらためて知ってもらうための一皿です。

2. コントルノ（副菜）：「ようこそアーツ前橋へ」のコンセプト　福西副議長
   内覧イベントとアーツ前橋の３つのコンセプトの関係性について考えてみます。

3. プリモピアット（第一皿）：いろいろな参加者で内覧イベントを振り返る
   バラエティにとんだ話し手たちによって織りなされる一品です。

   パフォーマンスを作っていくプロセスを中心に、内覧イベントで多様な市民の関わり方があったことを紹介します。それによって得られたもの、失われたかもしれないものを考えてみてください。

   話し手：浅野 澄さん（まえばしCITYエフエムアナウンサー）
   新井 隆人さん（うしろまえばし参加　詩人）
   荒木 聡志さん（内覧イベント朗読劇音楽担当　劇団灰ホトラ主宰）
   カナイ サワコさん（マエバシ文化年表参加　美術作家）
   木暮 伸也さん（写真家）
   栗原 啓祥さん（パフォーマンス参加　清心幼稚園副園長）
   坂川 善樹さん（内覧イベントパフォーマンス舞台監督）
   清水 保彦さん（市内の演劇活動ウォッチャー）
   野崎 美樹さん（アーツ前橋学芸員）

休　憩

4. コントルノ２：多様な参加によって生まれる切実な文化の場　福西副議長
   さまざまな領域の人たちが、芸術・文化を手がかりに出会うことで生まれる可能性を考えます。

5. セコンドピアット：フリートーク
   パエリアのようなさまざまな食材をみんなで分けあって味わうような一品です。

   入っているかもしれない食材
   - 市民参加と上質な美術的価値の共存の可能性
   - アーティストと市民が対話することで生まれる可能性
   - 市民参加によって、さまざまな領域がアートをハブに結びつく可能性
   - それらを実現するための困難とそれを乗り越えるための方策は？
     →広報、企画立案のあり方、情報開示、縦割りでない情報共有、財政基盤、地域との結びつき、行政との関わり、etc…

6. ドルチェ：今日のまとめ　福西副議長

アーツなカフェは、前橋文化推進会議 が提供しています。

情報交換、出会いの場です！
アーツなカフェは、前橋文化推進会議がご用意する、市民と市民の対話の場、市民と行政の対話の場、市民と文化・芸術の対話の場です。

持参したチラシはカフェテーブルに置いてください！
facebook、twitter への投稿はＯＫ。写真撮影もＯＫですが、主催者以外の参加者の顔を外部に出す可能性がある場合は、必ずご本人に許可をとってください／ビデオ撮影、音声録音はご遠慮下さい。また、本日は Ustream 中継を予定しております。もし画面に入りたくない方は、開始前に確認いたしますので、その旨、ご表明お願いいたします。

＊第４回アーツなカフェメニュー（次第）

■ クリエーターと話すカフェ

内覧イベントから考える、みんなのいろんな参加のしかたについて

◆１ アンティパスト（前菜）：前橋文化推進会議について ／喜多村

あいさつ／前橋文化推進会議（以下：ブンスイ）メンバー紹介

＊このセクションでは、前橋文化推進会議の概要とこれまでの活動を紹介するとともに、アーツなカフェの主旨とアーツ前橋のコンセプトについて触れました。

＊前橋文化推進会議については、ＨＰをご覧ください。
http://maebun.web.fc2.com/

＊アーツなカフェの主旨：市民相互、市民と行政、市民と文化・芸術の対話を創出することを目的として前橋文化推進会議が主催するラウンドテーブル。

＊「ようこそアーツ前橋へ」のコンセプト
創造的であること／みんなで共有すること／対話的であること
詳細は、アーツ前橋ＨＰをご覧ください。
http://www.artsmaebashi.jp/?page_id=4

■アーツ前橋の活動コンセプト

アーツ前橋
ARTS MAEBASHI

創造的であること	creative
みんなで共有すること	share
対話的であること	dialogues

2013年春
アーツ前橋/前橋文化推進会議　一同

■アーツなカフェ

前橋文化推進会議

市民相互、市民と行政、市民と文化・芸術の対話を創出することを目的として前橋文化推進会議が主催するラウンドテーブル。

＊アーツなカフェの主旨とアーツ前橋のコンセプト（投影資料から）

参加者Ａ　中身について、毎回の議事録までとはいわないが要旨くらいは出てしかるべきだったんじゃないかなと思う。市がやっている審議会等ではオープンにしているというのが昨今の流れです。ブンスイは前橋市から公認を受けてやられているので当然これはオープンであるべきだと思う。コンセプトにもあるように対話的であるとすれば、ブンスイの中で何が話されて来たか全く我々に伝わってきていない。むしろ閉鎖的という風に感じられます。そこをオープンにするということで市民との対話が生まれるのではないでしょうか。そこを閉鎖してしまったら市民参加という形、共通認識は生まれない。事情はあるのは承知していますが、こういう話しがなされたということがどこに公表されているかも解らない。

喜多村　ご指摘は持ち帰り今後検討したいと思います。

◆２ コントルノ（副菜）：「ようこそアーツ前橋へ」のコンセプト／福西

＊このセクションでは、内覧イベントで掲示されたアーツ前橋のコンセプトを紹介する予定でしたが、当日は、前セクションで触れたため、本セクションは省略されました。

◆３ プリモピアット（第一皿）：
いろいろな参加者で内覧イベントを振り返る／福西

福西　クリエーターと話すカフェを始めたいと思います。

今日の会場レイアウトは、結婚式や宴会場のような感じになっています。内覧イベントも演者と観者が混じり合うような状況になることを考えてつくりだされたパフォーマンスでした。実は、今日の会場も話し手と聞

き手が混じりあって座っています。どんな内覧イベントであったのかを振り返る意味も込めてこのような会場レイアウトになっています。それでは話し手を紹介していきたいと思います。

話し手紹介

浅野　澄（まえばし CITY エフエムアナウンサー）
新井　隆人（うしろまえばし参加　詩人）
荒木　聡志（内覧会イベント朗読劇音楽担当　劇団灰ホトラ主宰）
カナイサワコ（マエバシ文化年表参加　美術作家）
木暮　伸也（写真家）
栗原　啓祥（パフォーマンス参加　清心幼稚園）
坂川　善樹（内覧イベントパフォーマンス舞台監督）
清水　保彦（市内の演劇活動ウォッチャー）
野崎　美樹（アーツ前橋学芸員）

Q：会場内に内覧イベントに参加した方はいますか？
（赤青カードを掲示して回答／赤：見てない／青：見た）
---- 会場の多くの方が「青：見た」を掲示。

浅野　パフォーマンスを拝見したときに、自分もその空間の一人にしてもらえたという感覚があった。シアターとかだと、見ている自分とパフォーマーとに隔たりがあるが、内覧イベントでは目の前をパフォーマーが駆け抜けていったり、時には触られたり、一緒になって遊んじゃっていいんじゃないのという楽しさを感じた。もっと自分を自由にして楽しんでもよかったと思った。隔たりを外して、空間に入り込める一つのきっかけになったんじゃないかと思う。

野崎　アートスクールＳコースはサポーターについてみんなで考えるというコースだった。

実際に活動してみていろいろと仕組みを検討していく中で、試行錯誤していこうという意識が皆さんの中にすごくあった。Ｓコースの方たちは、アーツ前橋とかかわりたい、アーツ前橋をよくしたいという気持ちで集まり、関わってくれた。とてもフレンドリーな雰囲気を作っていただいた。

福西　主体的にかかわれるようになったということですね。

栗原　子どもの生活の延長の流れのなかで関われたらいいなと思い、話し合って来た。（提案を）そのまま受けるのではなくて、子どもたちの様子をみるとこうだから、この辺はこうかえていただくとありがたいですというような方法で、お互いの（やりとり）の中で作られていった。自分自身も面白かった。

福西　子どもたちがかかわったことで、パフォーマンス自体も変わったし、パフォーマンスに関わったことで子どもたちも変わっていったということでしょうか。

栗原　初日と二日目では、実は内容が違っていた。自由な遊びの表現をアーティスティックに観ていただくというコンセプト自体もすごく面白いと思っていたんですけど、初日は予想以上に観客の方が多く、熱気もすご

くて、子どもは少し参ってしまったので、相談をして二日目は違う形で関わらせてもらった。そういったことも、即興的、対話的でおもしろかった。個人的にも楽しませてもらった。

福西　幼児が稽古して演じるということではなく、普段の動きを作品に取り込むという方法でしたが、それに対して新井さんの意見を。

新井　私が最初期待していたのは、訓練されたパフォーマンス。緊張して、やるんだ！という姿があったらよかったなと思った。街中、公園、幼稚園でも見られる子どもたちのはしゃいでいる風景を美術館でみることに個人的には戸惑いがあった。しかし、そのことを山賀さんと話をしたところ、山賀さんなりの演出プランでやったことが解ったし、栗原さんの話しからも相当な苦心があったということが解った。

　このように、自分が意見を言うことだけでなく、対話をすることで新しいことが解るということも大事だと解った。

山賀ざくろ（内覧イベントコンセプト・総合演出）　前橋に永く住んでおりますので、ウォーク館であったことなど思い入れもあったので、歩きながら館内を巡りながらパフォーマンスすることを考えた。

　幼児の遊んでいる動きは生き生きとしていて面白い。トレーニングを積み重ねて、きっちりすることもすばらしいことだと思うが、日常生活の子どもの動きそのものを美術館の空間でお見せしたいということを考えた。子どもたちは美術館等の、本来静かにしなければいけない場に来ると、むしろ走り回りたがる。それをそのまま見せればいいと。自由な動きをお見せできたので、自分としては満足できている。

新井　去年の秋からアートスクールＢコースマエバシ文化発信局というスクールがあった。それは facebook と ZINE を作るというもので、最終的にうしろまえばしという facebook ページを開設し、また３月の内覧イベントで ZINE を作って皆さんに配らせていただいた。

　内覧イベントの自主企画として、うしろまえばし散歩というのをやりたいと言ったら、自由にやらせてもらえることになって、うしろまえばしの facebook で参加者を募って９名で内覧イベント二日目に合わせて開催した。馬場川の東側コースを３時間くらいかけて歩いた。一人では発見できないものが大勢では見えるんだなと思った。また、リアルに人と知り合えるので面白かった。

福西　アーツ前橋を中心に今まで知らなかった人と出会ったり、意気投合することができたということですね。

カナイ　Ｅコースは館林美術館の染谷さんを講師としてお招きし受講生十数名。それぞれが興味をもったものの年表を作った。内覧イベントでは、展示をコーディネートさせてもらった。年表を作って前橋の歴史を知ってもそれが直接自身の制作に結びつく訳ではないのですが、作家が作品を作る以外に提供できるものに、「考えを提供する」ということがあって、これから、人と人、場所と人をつなぐ上で知っていくと考え方を提供する上で役に立つのではと思い参加しました。

＊当日のカフェの様子

福西　作品を作るだけではない可能性を感じられたということですね。

木暮　僕の場合、商業的な写真の仕事と、自分の表現活動を平行してやっていて、「よし、できたら自分の作品もここに！（展示）」なんて考えもちらちらっと思ったりはする訳ですけど、子どもたちに先に超された感があった（笑）。でもあれが端的にこれからのアーツ前橋の方向の一つを表しているのかな、なんて思った。あるくことからはじまるとか、つながるとかのテーマがどういう形で展開されていくのか。あれだけの盛りだくさんの何がおこるか解らないイベントだったので、とにかく（撮り）こぼさないように、当日はとにかく走っていた。

福西　膨大な枚数になりましたね。
（当日、会場を埋めた写真は全て木暮氏撮影）

荒木　演劇という表現は、状況全体の中で自己実現、自己完結できるという表現なんです。やっている側も見る側も、同質的な集まりになってしまったり、作品全体が時代性、現代性とか外向きに働きかける力はしばしばおざなりにされることがある。そんななか、お声掛けいただいて、パブリックな感じで自分たちの表現を乗せて、全くの他者との出会いがあったことは非常に価値のあることだった。それは、子どもだったり、高校生であったり、他ジャンルのパフォーマーであったり、またプロアマの差異を見ることができたりした。なかなかそういう機会はない。ほんとに刺激的だったし、いい時間だった。

坂川　中を見ていただくのがメインだったので、あまり飾りたてずに、光と影とコントラスト、あとは真っ白い壁面に少し色を足すだけの作用でパフォーマンスを引き立てることに重きを置いて、それが嫌味にならない程度で済んだというところでうまくまとまってよかったと思う。

　この子（自分の子ども）は三歳なんですが、あと 10 年もすれば 13 歳です。そんな子どもたちが 10 年たったあとに、アーツ前橋があって、その周りの街中にもアートが広がっていればいいなと思う。バレエの稽古をしている子どもたちにも来ていただけたが、普段ちゃんとした踊りしかしていないので、自由に踊っていいよとなると「自由ってなんですか」ということになる。それが何回かの練習のなかで、自分たちの中の自由が見えて解放できたような体験もさせてあげられた。お手伝いいただいたＳコース

＊内覧イベント『walk あるくことからはじまること』チラシ

の人やその他の人達との連携についてですが、プランのなかで一瞬暗転をとりいれなければならない場面での注意喚起について、先に言ってしまうとネタばらしになってしまうし、言わないと危ない。そんな葛藤もあって、どこまで安全性を高められたかという点でも行きとどかない所があったと思う。

素人といったらおかしいけれど、前橋市民 (市民参加 ?) でやっていただいて、ここまで出来るという実績になったと思うし、次回同じようなイベントの際にはさらによりよいものができるとすれば、前橋の芸術力が少し上がったんじゃないかと思う。芸術がどこからどういう風に成りあがっていくのか、見えるのもアーツ前橋でできることの一つかもしれない。

福西　安全性についても大事なポイントで、安全性を確保することで表現が犠牲になったり、逆に表現を優先するために安全性が後退することについて、議論を深める余地があるとおもいました。

清水　先ず入れ物（建物空間）それ自体を作品として見ようと思い、いろいろなところを見て廻った。スロープもいろいろな通り方をして、どういう景色が見えるか、というところを観察した。パフォーマンスはそういう入れ物に入れられた作品、としてみようという見方で見ている。ハコモノといわれる、文化会館とかの額縁画面と同じようなものでみる作品とそうでないものとは全然違ってくる。絵画は前面からしか観ない。立体的なオブジェになると、壁を背にしておかれていると、展示の仕方が違うのではないかと私は思う。裏側はどうなっているのかという見方 からすると、今回のパフォーマンスはほとんどが立体的に眺めたらどうなるかという作

りでできていた。そういう見方ができる作品として、意義がある作品になっている。作品の出来不出来ではなく、トライとしてはなかなか面白い試みではある。でもまだまだもっとパフォーマンスとしての使い方はあると思う。演劇に関して言えば、一階から三階までを芝居仕立てにパフォーマンスを完成させたりしたところもある。そんなことにも使えるのではないか。使う人がいったい何を考えて、どういう風に使うか、というところが一番の大事なポイントで、単にイレモノがあってそこに展示すればいいというのであればそれを他に持っていっても同じ表現ができるのだったらば、わざわざここでやる必要があるのかどうか。

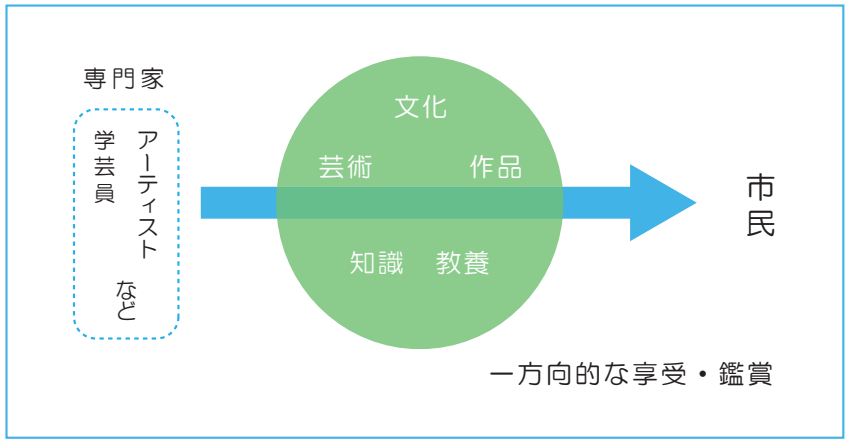
ここでないと表現できないものが表現できれば面白いものになるのではないか。

（休 憩）

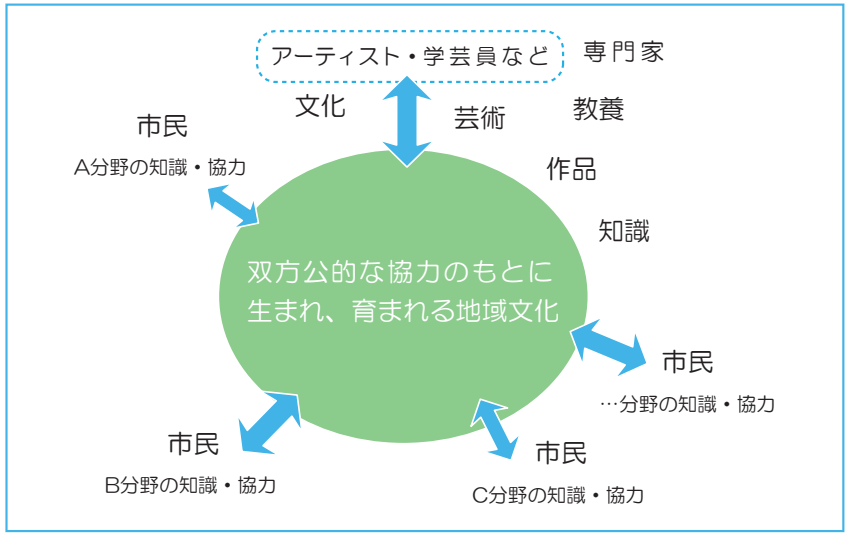
◆４ コントルノ２：多様な参加によって生まれる切実な文化の場／福西福西

病院と美術館 → 問題解決の場、多様な関わりとつながり
欠如モデルと協調モデル
協調モデルを支えるもの
協調モデルを取り入れることで、美術館もイノベーティブで可能性に満ちた文化を扱うための切実な場になりうるのではないか、そういったことをこれから話し合ってみたい。

欠如モデルによる芸術文化施設のあり方



協調モデルによる芸術文化施設のあり方



◆5 セコンドピアット（第二皿）：フリートーク

参加者 A　福西さんがファシリテートするのはいいんですが、もっとフリートーキングでもいいのではないか。誰が主人公かをおっしゃりたいわけですから、だったら自由に話してもらう方がいいのでは。どこにもっていきたいのですか。

福西　多様な参加の重要性です。質か多様な参加か、そのあたりのご意見をおきかせいただきたい。

参加者 C　ブンスイのなかではどういう意見であるのか。

福西　ブンスイでは質の高さを掲げています。そこでは多様な参加の可能性もあるし、多様な参加のなかで高まる質もあるかもしれない。

参加者 C　具体的には？

喜多村　運営検討委員会が提言したのは、多様で質の高い（作品 / 参加）芸術文化施設というものでした。私たちブンスイはそれを受けて市民参加の在り方を検討している。一般論として、多様であることは質の低下をまねき、質が高いと一般市民は参加しにくい。折衷案ではなく、それらを組み合わせてなにができるのかということをブンスイでは議論している。ベストと言い切れるところまでは行っていない。内覧イベントもそうでしたが、参加される個人のさまざまなスキル、能力がある。その人の能力が発揮できる参加の仕方はどういうものがあるのだろうか。それを具体的に考えていくことで、こういうありかたがあるのではないか、と話しをしています。

参加者 C　内覧イベントではファインアートというよりもパフォーマンス的なものをイベントとしてやったじゃないですか。美術館とは基本的に関係ないものを全面に押し出してやりましたよね。それと、今後美術館を運営していくという考えかたとどうつながっていくのかわからない。

住友（アーツ前橋館長予定者）　私は基本的には美術が好きな人も美術作家もダンスや音楽にも関心があるので自然なことだと思っている。とくに前橋にそういう場所がないわけですし。ただ、美術じゃない分野をやるときに、そういう設備でない施設をどう使うかというときに、作品があるところをかわしながらやるよりも、今、フルで使えるときにやってみるというのもひとつの手ではないかと思った。今後もがらんと空いていることがないのかというとそうではなくて、展示替えの間とかそういうタイミングもけっこうあるので実際にこういうプログラムも今後やっていくつもり。

もう一つは、いろいろな「検証」がプレの間ではできるということです。我々もお客さん入れてやるイベントは初めてだったので、お客さんがどう動くのかとか、サポーターと運営していくときにどういう問題があるだろうということをどんどんシミュレーションしていかなくてはいけないので、そういう意味でこういう試みをやってみるのもいいのではないか、という成り立ちだった。

参加者 C　私もあの日妻と一緒にきたが、美術館だから絵や作品があると

思って来たが面くらっていた。そういう意味で、他のこともやるというコンセプトをきちんと発信していかないと、一般の人から見ると、美術館には展示物があって、それを見に来るというイメージしか多分ないと思う。ここは広がりがあることをやっていくということを発信していかないと、来る人の感覚とやっていることが違うというのは人によっては考えることがあると思う。

まさに、中でやっている人と外のサポーターたちがどういうふうに関わっていくかは大きな問題だと思うし、高いレベルという意味は解るが、その考え方はバラバラなので、どのレベルに持っていくのか。趣味で絵を描いていることが高いレベルの芸術と思っている人もいるし、著名な作家のものを見るのが芸術だと思っている人もいるし、ばらばらだと思う。
皆さんで話し合われた方がいいと思います。

参加者Ｄ　内覧イベントのような性格がそのまま引きずられて、グランドオープン後のイメージもひきずられてしまうとちょっと怖いと思う。美術館より幅は広いけれども、テーマパークではなく文化施設なんだという性格づけは必要だと思う。子ども、家族等いろいろなパターンを見越したマナー教育も必要だと思う。このあいだの内覧イベントの内容に、もうひとつ、美術を味わうという別のパターンもあってよかったと思う。海外や東京で認められた前橋市出身の作家が錦を飾る展覧会を開くというのが一番悲しい。そうではなく、まだ芽の段階から市民が育て上げて、それで有名になれば、市民が育てたんだという文化意識が高くなる。

参加者Ｅ　内覧イベントは全体的に面白そうだとは思ったんですけれど、市民参加型とはいうがやっていることはマニアックだったと思う。

市民が新しいアートに興味を持つためには、解りやすい美術と、「そうじゃない入り口」が同時にあればいいと思う。

参加者Ｄ　何かが生まれようとしている今のこの時期が非常におもしろい時期だと思う。オープン後にそんなに長い時間を経ないうちにある程度のプラスの部分（実績）を積み上げていく必要があると思う。

参加者Ｆ　郷土にかかわるひとの常設展示とかそういった親しみのある美術館としての方向性は必要と思う。内覧イベントに展示されているものに親しみは感じられなかった。にぎわいが求められるこの場所に、郊外の美術館のような難しいものは合わない。内覧イベントには市民の思い、素人っぽい思惑は反映されていなかったと思う。 内覧イベントの展示物の必要性、いきさつ、その後の展開、そういうことを今日は伺いたいと思ってきた。その辺りの話しは全然されない。前橋に関わる皆さんが参加できる美術館であってほしい。

喜多村　オーソドックスな美術に慣れ親しんだ人には今回の内覧イベントは親しみにくいものだったと思う。しかしそうでない人にとっては親しみやすいものだったと思う。それはそれぞれの立場の違いによって生じてくる問題もある。かかわり方が違うんだと思う。

もう一点、「美術館」という言葉が使われているが、アーツ前橋は芸術文化施設です。美術館的機能が前面に押し出されているが、決してそれだけに収斂されるものではないから内覧イベントが展開された。そこを強調

させるためにオーソドックスでないものが前面に出されたと理解している。

わかりやすさとは、相対的な問題でもある。それを乗り越えた上で親しみやすくなるためにはどういうあり方が一番いいのか、多様な参加によってなにがうまれるのか、多様な参加だからこそ何を生むことができるのかを話しあう場にしたい。話し合いの過程では対立はあるのかもしれないが、それを乗り越えて、「アーツ前橋」をどうしていくのか、それに向かうために建設的でありたい、というのが議長としての思いです。

参加者Ｇ　三つあるんですけど…
①どういう風に発信していけばわかりやすく伝わるかが、一番の問題ではないか。
②アーツには魅力のある方達がこれだけ集まっているのだからその「権威」を使って示してほしい。
③年間を通した計画性が見えないので、見通しをはっきりしてもらいたい。

◆６ ドルチェ：今日のまとめ

福西　多様な声をきちんと聞きあうことはどうしても時間のかかることでなかなか前にすすまないところでもある。いろいろな方からいろいろな意見が聞けたことは今後ダイナミックな形でアーツ前橋の事業に反映されていくことだと思います。

ブンスイとしても力の及ばない部分があり申し訳なかったが鋭意がんばっていきたいと思いますのでこれからもよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

■ 第４回アーツなカフェ：アンケート結果

アーツなカフェに関するアンケート

前橋文化推進会議では、開館へ向け『アーツ前橋』の魅力を市民に発信するために、推進会議の検討内容やプレイベント等の周知及び開館後の広報活動を行っています。今後の活動の参考にするため、以下のアンケートにご協力ください。

① なにを見て、アーツなカフェを知りましたか？
該当する項目をチェックしてください。（複数回答可）
□ちらし　□ポスター　□ facebook　□ twitter　□文化推進会議ＨＰ
□前橋市ＨＰ　□広報まえばし　□新聞（　　新聞　）
□関係者から誘われた　□友人知人
□その他（　　）

② アーツなカフェに参加した回数を教えてください。該当する回数にチェックしてください。
□初めて参加する　□２回目　□３回目　□４回目

③ 今後の前橋文化推進会議に最も期待することは何ですか？
該当する項目をチェックしてください。（複数回答可）
□市民周知の広報活動　□企画運営の側面支援　□市民参画の仕組み作り
□市民対話の場の創出　□多様で質の高い芸術文化（アート）の振興
□その他（　　）

④ 今後、隔月開催予定のアーツなカフェで開催してほしいことはなんですか？
（例：ワークショップ、講演会、マルシェ　etc…）

⑤ 本日のカフェのご感想、ご意見、ご質問等がありましたらご記入ください。

ご協力ありがとうございました。
（＊無記名によるホームページ等への転載　可　・　不可　）

氏名（必須）：

住所：〒　　**電話番号：**

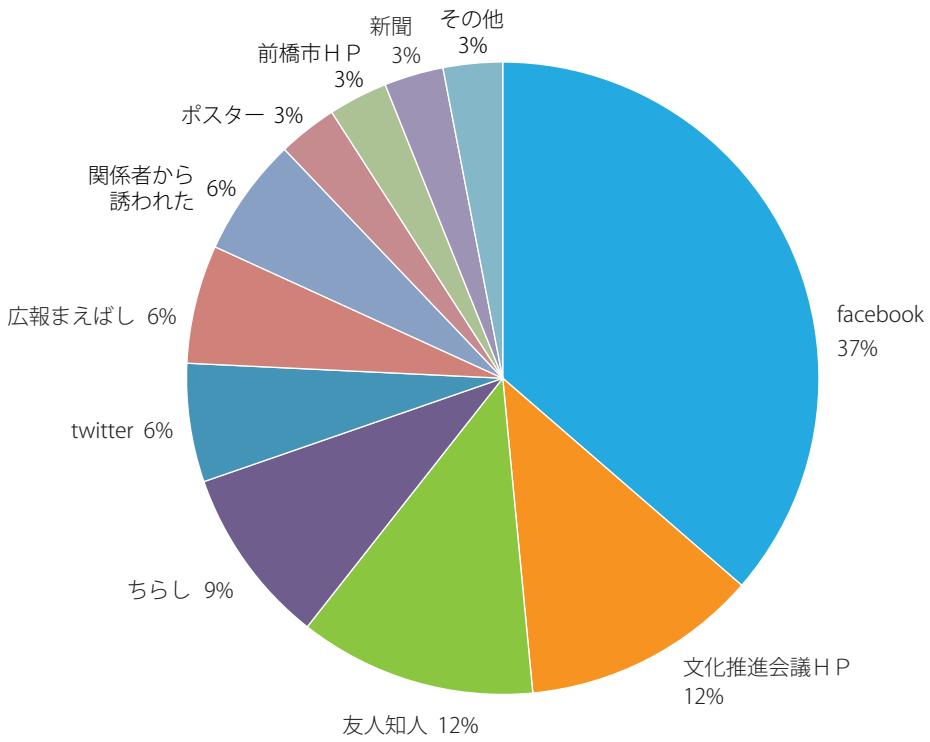
メールアドレス：

（前橋文化推進会議が運営するメーリングリスト【ブンスイＭＬ＊】への登録を希望する方は、記入してください。）
お預かりした個人情報は、今後の前橋文化推進会議並びにアーツなカフェ運営の参考とさせていただく以外、使用いたしません。

＊ 2013 年 10 月 26 日に前橋にオープンする『アーツ前橋』と市民をつなぐ、前橋文化推進会議（ブンスイ）が運営する、メーリングリストです。アーツなカフェにご参加いただいたみなさんに、ブンスイの取り組みやアーツ前橋関連の情報をお届けします。また、皆さんの関わる芸術文化活動の広報にもご自由にご利用ください。
＊この ML はアート・文化活動の告知を目的とするものなので、議論はお控えくださるようお願いいたします。

＊当日配布した第４回アーツなカフェ　アンケート

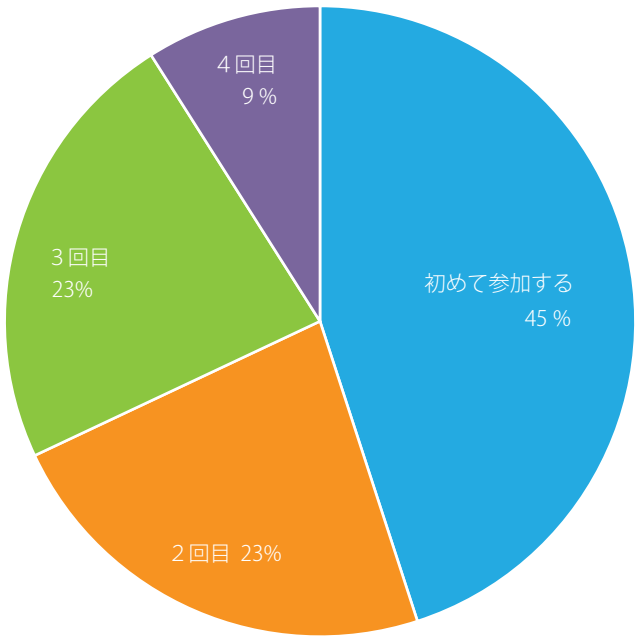
① なにを見て、アーツなカフェを知りましたか？（複数回答あり）



アーツなカフェ参加者の 58%が SNS（facebook、twitter、HP）をとおして情報を得ています。

第２回のアンケートでは 59%だったので、ほぼ横ばいですが、紙媒体をとおして参加した方は 21%で、第２回の 24%（第１回は 21%）に比べると僅かに減少しています。今後も SNS と同じく広報物での周知に力を入れていきます。

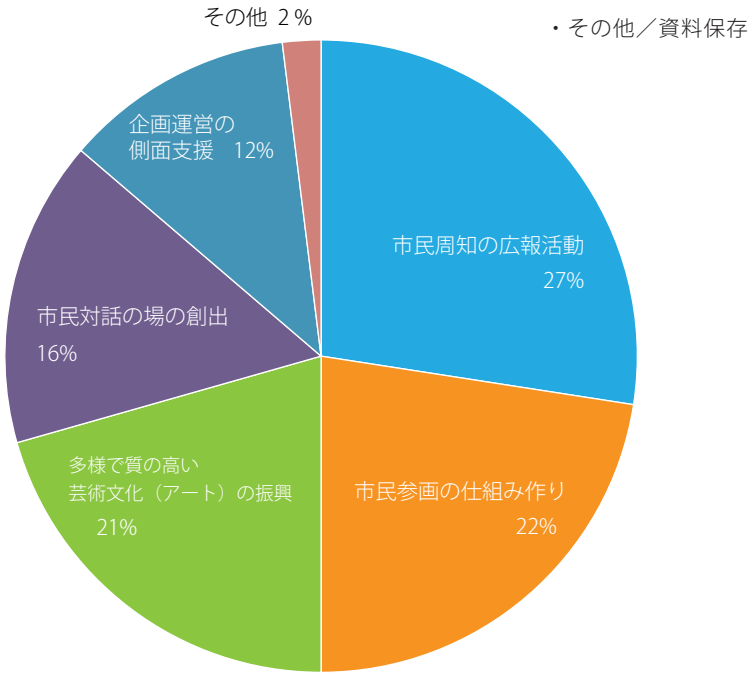
② アーツなカフェに参加した回数を教えてください。



複数回参加してくださっている方が過半数を超えている一方、初めて参加する方が半数近くいます。

カフェに継続参加している方が多いので、より深くアーツ前橋のことを知ってもらえるよう努めるとともに、初めての方でも参加しやすいテーマと雰囲気つくりを工夫することでアーツ前橋のことに興味をもっていただけるよう、残りのカフェを企画していきます。

③ 今後の前橋文化推進会議に最も期待することは何ですか？



第２回アーツなカフェで行ったアンケートでは、市民参画の仕組み作り 30%、市民周知の広報活動 22%、多様で質の高い芸術文化（アート）の振興 22%、市民対話の場の創出 22%、企画運営の側面支援 4%でしたが、今回は、市民周知の広報活動 27%、市民参画の仕組み作り 22%、市民対話の場の創出 16%、企画運営の側面支援 12%となりました。カフェを重ねるなかで、ブンスイが期待される役割に変化が起こりつつあるように見受けられます。

④ 今後、隔月開催予定のアーツなカフェで開催してほしいことはなんですか？

- オープン後の企画プレゼン
- ブレスト（否定ではなく常に代案が出るような
- 展示の案
- 本当にカフェみたいなカタチ
- 美術（芸術）の見方についてのレクチャー等
- ワークショップ
- 講演会
- フリートーキング
- 展示、見学
- グループディスカッション
- もっと若年層（小中高生への参加の呼びかけがあると良いのでは？

⑤ 本日の感想、ご意見、ご質問等

- ごめんなさい　よくわからなかったです。
- 全く市民参加が用意されていなかった
- なかなか固い場だったんだ。。とびっくりしました。
- 本日のまとめが余りなくわかり易いまとめをして欲しかった
- 美術、デザインなどの展示のみかと思っていましたので、イベント性のあるモノで祭りなどのコラボの開催や教育展示などどのようなのか。まだ会場を入って見ていないので、市民展と違った思考なのかと思う。
- アイデアをたくさんもっているアーティストの方がたくさん集まっているので発言のタイミングがもっともっとあったらいいと思います。

参加して意見を交換＝参加　の集まり（ハート）と思ってきたんですが、どちらかというと報告の場なのかな？ちょっとたいくつ…　ごめんなさ

い。まだ後半はじまったばかりなの　このあと変化するのかな？参加参加というコトバがたくさんきこえるが、この場は参加型じゃないー。

4th

多くの方にご参加いただきありがとうございました。

＊アーツ前橋開館までに、約６回の「アーツなカフェ」を予定しています。

＊カフェを運営するサポーターも随時募集しています。

■ 後 記

美術館プレイベント vol.23 内覧イベント「walk あるくことからはじまること」は、アーツ前橋のこれまでのプレイベントの取り組み、これからのプロジェクトを知ってもらうための各種展示と、ワークショップ、トークに加え、総勢 130 名の出演者によるパフォーマンスで構成されました。アーティストと、子どもを含む市民の有志によって、音楽とダンス、演劇の要素が組み合わせてつくり上げられたパフォーマンスは、観客を巻き込みながら行われました。

第４回アーツなカフェに登壇いただいた９名は、それぞれの仕方で内覧イベントに関わったクリエーターです。

アーツ前橋の学芸員である野崎氏は、アートスクールの受講生が試行錯誤をするなかで主体的に活動していたことをお話しいただいた。スクールに参加した新井氏からは、スクールの活動内容と、それとは別に実施した自主企画の体験をとおして、生身の人間が関わる面白さを話してくださった。そして、戸惑いを抱きならパフォーマンスを観たが、出演者や演出プランを聞くなかで対話をとおして観賞することの面白さを感じたと言われた。内覧イベントの展示をコーディネートしたアーティストのカナイ氏は、作家が作品を作る以外に「考えを提供する」ということがあることを話してくださった。

内覧イベントの総合演出を手掛けた山賀氏は、トレーニングされたパフォーマーと子どもたちの自然な振る舞いを同時に見せる演出意図を話していただき、パフォーマンス中の朗読劇の音楽を担当された荒木氏は、表現者も観客も含め、同質的な集まりに陥る傾向があるが、今回の内覧イベントでは全くの他者と出会えたことに価値があると話された。舞台監督を務めた坂川氏は、施設の空間をみせることとパフォーマンスを引き立てる演出についてお話をいただくとともに、市民参加でできることの実績をつくったこと、芸術が立ち上がっていく様を見ることができるのもアーツ前橋でできることの一つかも

しれないと感想を言われた。栗原氏は、参加する子どもの実態を説明し、それに対して考慮しながら立ち上がっていったパフォーマンスの経緯について、即興的で対話的であったと話された。

観客としてイベントに参加した浅野氏は、パフォーマーと観客の隔たりが外れた状況を「自分も空間の一人にしてもらえたという感覚があった。」と回想してくださり、演劇活動を長く観てこられた清水氏は、今回のパフォーマンスは額縁舞台とは異なり立体的にみることができるように作られており、試みとして意義があるとの評価を得た。同時に空間の使い方や、これからの展開について興味深い視座を示された。

パフォーマンスの撮影に携わった木暮氏は、アーティストの作品に先行して子どもたちの表現があったことがアーツ前橋の方向の一つを表しているようであったこと、何が起こるかわからないイベントであったことを話された。

様々な立場から参加してくださった方々のお話に、興味は尽きませんでした。試行錯誤や対話の必要性、新たな考えを示すこと。鍛練と自然的振る舞い、他者と出会うこと、立ち上がっていくことに出会えること。演者と観客の融合、立体的に捉える試み的価値、何が起こるかわからないことなど、市民参加を考えるための示唆に富んでいるように思われます。

クリエーターの方々は、それぞれが違った関わり方だったために接点がなかった方もいましたが、今回のアーツなカフェを介して集まり、イベントを振り返るなかで、お互いの視点を認識しました。カフェ終了後には、クリエーター間に限らず、参加してくださった方々との間にもさまざまな交流や対話が生まれています。このような出会いは、今回のカフェに限ったことではありません。カフェに参加してくださった方と知り合いになり、ブンスイにさまざまな意見をいただいています。

市民参加を考える際、さまざまな課題があります。その多くの課題のなかから私たちブンスイが最も重要視しているのは「対話的」であることです。

アーツなカフェは対話の場です。対話のなかで議論が生まれることがあります。合意がされることもあれば違いが浮き彫りになることもあります。二者択一ではなく、その違いを前提としたうえで、私たちは何を構築することができるのか？カフェではそれぞれの立場を知り、寄り添いたいと願っています。

最後に、アーツなカフェに参加いただいたクリエーターの皆様、ならびに、お忙しいなかご参会くださった多くの皆様に厚くお礼申し上げます。

2013 年 7 月
前橋文化推進会議 議長
喜多村 徹雄